

米国農務省穀物等需給報告(2025 年 12 月 9 日発表のポイント)

令和 7 年 12 月 10 日
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、12 月 9 日(現地時間)、2025/26 年度の 7 回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通し等を発表した。その概要は以下のとおり。

—2025/26 年度の穀物の生産量は消費量を上回る見込み

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み) (※↑↓→は前月見通しからの増減)

- ① 生産量: 29 億 5,403 万トン(対前年度比 3.5%増) ↑
- ② 消費量: 29 億 5,298 万トン(対前年度比 2.6%増) ↑
- ③ 期末在庫量: 7 億 7,347 万トン(対前年度比 0.1%増) ↑
期末在庫率: 26.2%(対前年度差 0.6 ポイント減) ↑

【主な品目別の動向】

小麦: カナダ、アルゼンチン、EU、豪州、ロシアなど複数の主要小麦輸出国の生産量が上方修正されたことを受け、世界全体の生産量は、前月から上方修正された。前年度からも増加する見通し。世界の消費量も前年度から増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を上回り、前年度を上回る見通し。

- 1 生産量: 8 億 3,781 万トン(対前年度比 4.6%増) ↑ … EU、ロシア、アルゼンチン、インド、カナダ、豪州等で増加(前月に比べ、カナダ、アルゼンチン等で上方修正)
- 2 消費量: 8 億 2,297 万トン(対前年度比 1.5%増) ↑ … EU、インド等で増加、中国等で減少
- 3 期末在庫量: 2 億 7,487 万トン(対前年度比 5.7%増) ↑ … インド、ロシア、カナダ、EU 等で増加、中国等で減少
期末在庫率: 33.4%(対前年度差 1.3 ポイント増) ↑

とうもろこし: EU、ロシア、ジンバブエで生産量が上方修正されたものの、ウクライナ、カナダ、ナイジェリア、インドネシア、セネガルで下方修正され、世界全体の生産量は、前月から下方修正された。前年度からは増加する見通し。世界の消費量も前年度から増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を下回り、前年度を下回る見通し。

- 1 生産量: 12 億 8,296 万トン(対前年度比 4.3%増) ↓ … 米国、アルゼンチン、メキシコ、ウクライナ等で増加、ブラジル、EU 等で減少(前月に比べ、ウクライナ等で下方修正)
- 2 消費量: 12 億 9,718 万トン(対前年度比 3.6%増) ↑ … 米国、中国、メキシコ、ブラジル等で増加
- 3 期末在庫量: 2 億 7,915 万トン(対前年度比 4.8%減) ↓ … 米国等で増加、中国、ブラジル等で減少(前月に比べ、米国等で下方修正)

期末在庫率: 21.5%(対前年度差 1.9 ポイント減) ↓

コメ(精米): インドで生産量が上方修正されたものの、マダガスカル、フィリピンで下方修正され、世界全体の生産量は、前月から下方修正された。前年度からも減少する見通し。世界の消費量は前年度から増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を下回り、前年度を下回る見通し。

- 1 生産量: 5 億 4,041 万トン(対前年度比 0.2%減) ↓ … インド等で増加
- 2 消費量: 5 億 4,190 万トン(対前年度比 2.0%増) ↓ … インド等で増加
- 3 期末在庫量: 1 億 8,883 万トン(対前年度比 0.8%減) ↑ … (前月に比べ、インド等で上方修正)
期末在庫率: 34.8%(対前年度差 1.0 ポイント減) ↑

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

カナダ、ウクライナで生産量が下方修正されたものの、ロシア、インドで上方修正され、世界全体の生産量は、前月から上方修正された。前年度からは減少する見通し。世界の消費量は前年度から増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を上回るものの、期首在庫量の減少を受け、前年度を下回る見通し。

- 1 生産量: 4 億 2,254 万トン(対前年度比 1.1%減) ↑ … ブラジル等で増加、米国、アルゼンチン等で減少
- 2 消費量: 4 億 2,185 万トン(対前年度比 2.1%増) ↑ … 中国、米国等で増加、アルゼンチン等で減少
- 3 期末在庫量: 1 億 2,237 万トン(対前年度比 0.7%減) ↑
期末在庫率: 29.0%(対前年度差 0.8 ポイント減) ↑

世界の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2025年12月9日発表)

【穀物】

(単位：百万ト)

項目 \ 年度	2023/24	2024/25 (見込み)	(予想)	2025/26		(参 考) 2012/13
				前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
全体						
生産量	2,823.41	2,852.91	2,954.03	3.5%	8.1	2,299.4
消費量	2,818.96	2,877.99	2,952.98	2.6%	5.9	2,287.4
期末在庫量	797.50	772.42	773.47	0.1%	4.5	480.3
期末在庫率	28.3%	26.8%	26.2%	▲ 0.6	0.1	21.0%
小麦						
生産量	792.34	800.77	837.81	4.6%	8.9	660.8
消費量	796.96	810.77	822.97	1.5%	4.1	680.3
期末在庫量	270.04	260.03	274.87	5.7%	3.4	180.6
期末在庫率	33.9%	32.1%	33.4%	1.3	0.3	26.5%
粗粒穀物						
生産量	1,507.09	1,510.87	1,575.82	4.3%	▲ 0.3	1,162.6
消費量	1,497.28	1,536.08	1,588.11	3.4%	2.2	1,141.9
期末在庫量	347.27	322.06	309.76	▲ 3.8%	▲ 1.0	176.1
期末在庫率	23.2%	21.0%	19.5%	▲ 1.5	▲ 0.1	15.4%
とうもろこし						
生産量	1,230.70	1,230.61	1,282.96	4.3%	▲ 3.3	903.3
消費量	1,220.62	1,252.69	1,297.18	3.6%	0.6	880.6
期末在庫量	315.45	293.37	279.15	▲ 4.8%	▲ 2.2	145.5
期末在庫率	25.8%	23.4%	21.5%	▲ 1.9	▲ 0.2	16.5%
コメ(精米)						
生産量	523.97	541.28	540.41	▲ 0.2%	▲ 0.5	476.0
消費量	524.72	531.15	541.90	2.0%	▲ 0.5	465.2
期末在庫量	180.20	190.33	188.83	▲ 0.8%	2.1	123.6
期末在庫率	34.3%	35.8%	34.8%	▲ 1.0	0.4	26.6%

【大豆】

項目 \ 年度	2023/24	2024/25 (見込み)	(予想)	2025/26		(参 考) 2012/13
				前年度比	前月差	
生産量	396.36	427.15	422.54	▲ 1.1%	0.8	268.9
消費量	383.65	413.18	421.85	2.1%	0.3	265.4
期末在庫量	115.07	123.24	122.37	▲ 0.7%	0.4	58.3
期末在庫率	30.0%	29.8%	29.0%	▲ 0.8	0.1	22.0%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(December 9, 2025)
「PS&D」

- 注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。
- 2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。
- 3) 期末在庫率(%)＝期末在庫量×100／消費量
- 4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6～5月)、とうもろこし(9～8月)、コメ(8～7月)、大豆(9～8月)]
- 5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。
なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。
- 6) (参考)は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。
- 7) なお、「PS&D」については、公表された最新のデータを使用している。

米国の穀物・大豆の需給動向
(米国農務省2025年12月9日発表)

【穀物】 (単位：百万トン)

項目 \ 年度	2023/24	2024/25 (見込み)	(予想)	2025/26		(参 考) 2012/13
				前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
全体						
生産量	458.90	452.42	501.39	10.8%	－	353.0
消費量	366.49	360.93	379.86	5.2%	－	317.1
輸出量	85.72	100.66	114.64	13.9%	3.1	51.6
期末在庫量	68.09	66.73	80.77	21.0%	▲ 3.2	44.2
期末在庫率	15.1%	14.5%	16.3%	1.9	▲ 0.7	12.0%
小麦						
生産量	49.10	53.85	54.01	0.3%	－	61.3
消費量	30.18	31.24	31.41	0.5%	－	37.8
輸出量	19.21	22.48	24.49	8.9%	－	27.5
期末在庫量	18.95	23.15	24.52	5.9%	－	19.5
期末在庫率	38.4%	43.1%	43.9%	0.8	－	29.9%
粗粒穀物						
生産量	402.88	391.51	440.80	12.6%	－	285.3
消費量	331.42	324.40	343.19	5.8%	－	275.5
輸出量	63.37	75.31	87.23	15.8%	3.2	20.7
期末在庫量	47.87	41.87	54.57	30.3%	▲ 3.2	23.5
期末在庫率	12.1%	10.5%	12.7%	2.2	▲ 0.8	7.9%
とうもろこし						
生産量	389.67	378.27	425.53	12.5%	－	273.2
消費量	322.87	312.10	332.25	6.5%	－	263.0
輸出量	57.28	72.60	81.28	12.0%	3.2	18.5
期末在庫量	44.79	38.91	51.53	32.4%	▲ 3.2	20.9
期末在庫率	11.8%	10.1%	12.5%	2.3	▲ 0.9	7.4%
コメ(精米)						
生産量	6.92	7.05	6.58	▲ 6.7%	－	6.3
消費量	4.88	5.30	5.27	▲ 0.6%	－	3.8
輸出量	3.15	2.87	2.92	1.7%	▲ 0.1	3.4
期末在庫量	1.27	1.71	1.68	▲ 1.8%	0.03	1.2
期末在庫率	15.8%	20.9%	20.5%	▲ 0.4	0.5	16.1%

【大豆】

項目 \ 年度	2023/24	2024/25 (見込み)	(予想)	2025/26		(参 考) 2012/13
				前年度比	前月差	
生産量	113.27	119.05	115.75	▲ 2.8%	－	82.8
消費量	65.44	69.32	72.53	4.6%	－	48.6
輸出量	46.27	51.23	44.50	▲ 13.1%	－	36.1
期末在庫量	9.32	8.61	7.89	▲ 8.4%	－	3.8
期末在庫率	8.3%	7.1%	6.7%	▲ 0.4	－	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(December 9, 2025)
「PS&D」

- 注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。
2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。
3) 期末在庫率(%)＝期末在庫量×100／(消費量＋輸出量)
4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6～5月)、とうもろこし(9～8月)、コメ(8～7月)、大豆(9～8月)]
5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。
なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。
6) (参考)は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。
7) なお、「PS&D」については、公表された最新のデータを使用している。

(参考 1)

世界の穀物等の価格動向 (2025 年)

● 小 麦 : 5.38 ドル/bu (前年同時期の価格 : 5.43 ドル/bu)

【価格は、シカゴ商品取引所における 2025 年 12 月第 1 週末のセツルメント価格】

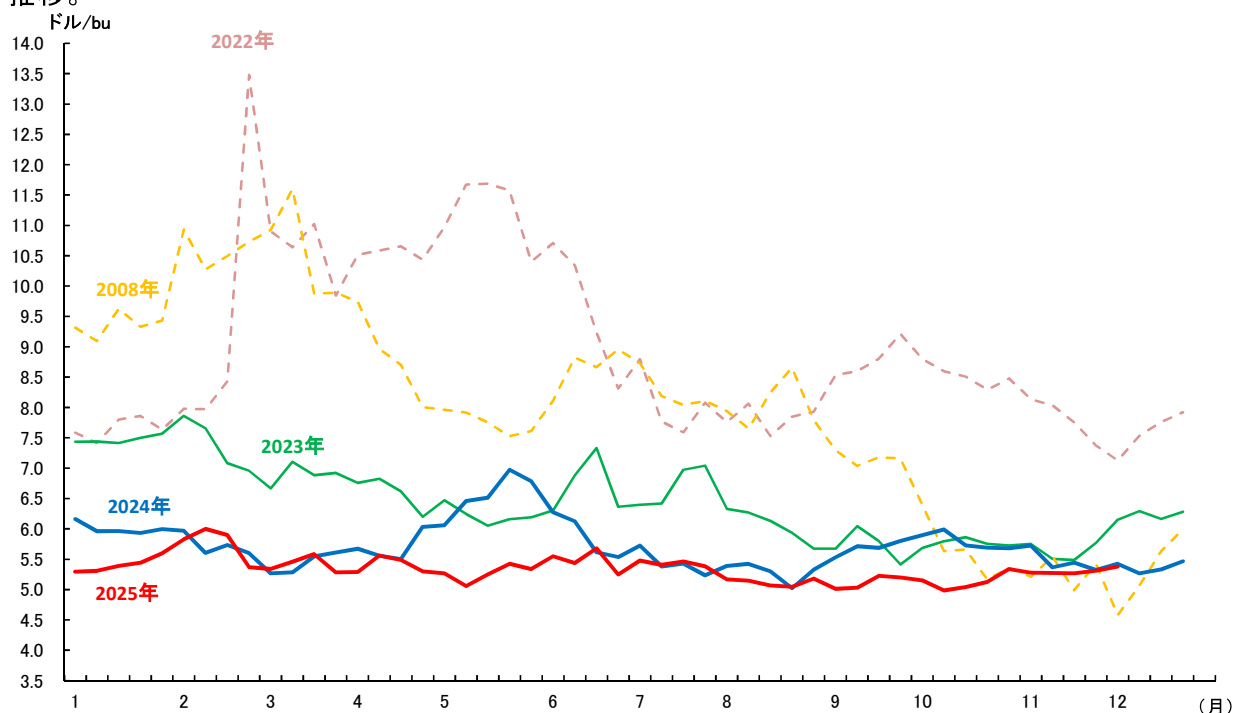
(史上最高値 : 14.25 ドル/bu(2022 年 3 月 7 日))

【1 月～6 月】1 月から 2 月 18 日にかけて、米国の対メキシコ関税措置の延期により報復関税に伴う米国産の需要低下懸念が和らいだこと、米国や黒海地域の冬小麦の作柄に対する懸念等を受けて 5 ドル/bu 台半ばから 6 ドル/bu 台前半まで値を上げた。3 月頭にかけて、米国や黒海地域の冬小麦の作柄に対する懸念が和らいだこと、米国の関税措置による報復関税に伴う米国産の需要低下懸念等を受けて 5 ドル/bu 台前半まで値を下げた。3 月 17 日にかけて、米國小麦産地の乾燥予報、ロシア産小麦の収穫見通しが下方修正されたこと等を受けて 5 ドル/bu 台後半まで値を上げた。5 月 12 日にかけて、米国や黒海地域の天候改善、米国農務省需給報告で米国産の期末在庫量が市場予想を上回ったこと等を受けて 4 ドル/bu 台後半まで値を下げた。6 月 18 日にかけて、米国産の堅調な輸出、中東における地政学リスクの高まり、米国及び欧州の作柄懸念等を受けて 5 ドル/bu 台後半まで値を上げた。その後、北半球における冬小麦の収穫の進捗やイスラエル・イランの停戦合意等を受けて 5 ドル/bu 台前半まで値を下げた。

【7 月～9 月】7 月に入り、米国、カナダ及び欧州の高温による小麦の作柄懸念等を受けて 5 ドル/bu 台半ばまで値を上げたものの、8 月 19 日にかけて、北半球における冬小麦の収穫進展等を受けて 4 ドル/bu 台後半まで値を下げた。8 月末にかけて、ドル安やロシア及びウクライナの緊張の高まり等を受けて 5 ドル/bu 台前半まで値を上げた。9 月 10 日にかけて、世界的に小麦の供給が潤沢なこと等を受けて 4 ドル/bu 台後半まで値を下げたものの、9 月末にかけて、米国産の堅調な輸出等を受けて 5 ドル/bu 台前半まで値を上げた。

【10 月以降】10 月に入り、世界的に小麦の供給が潤沢なこと等を受けて 4 ドル/bu 台後半まで値を下げたものの、米中首脳会談による貿易協議進展への期待等を受けて値を上げ、10 月末現在、5 ドル/トン台半ばで推移。

11 月に入り、中国の米国産小麦の調達が限定的との見方や米国農務省需給報告で米国産小麦の期末在庫量が市場予想を上回ったこと等を受けて値を下げ、11 月末現在、5 ドル/bu 台前半で推移。



注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2008年及び2022年と直近3年の価格の推移

● とうもろこし：4.37 ドル/bu（前年同時期の価格：4.31 ドル/bu）

【価格は、シカゴ商品取引所における 2025 年 12 月第 1 週末のセツルメント価格】

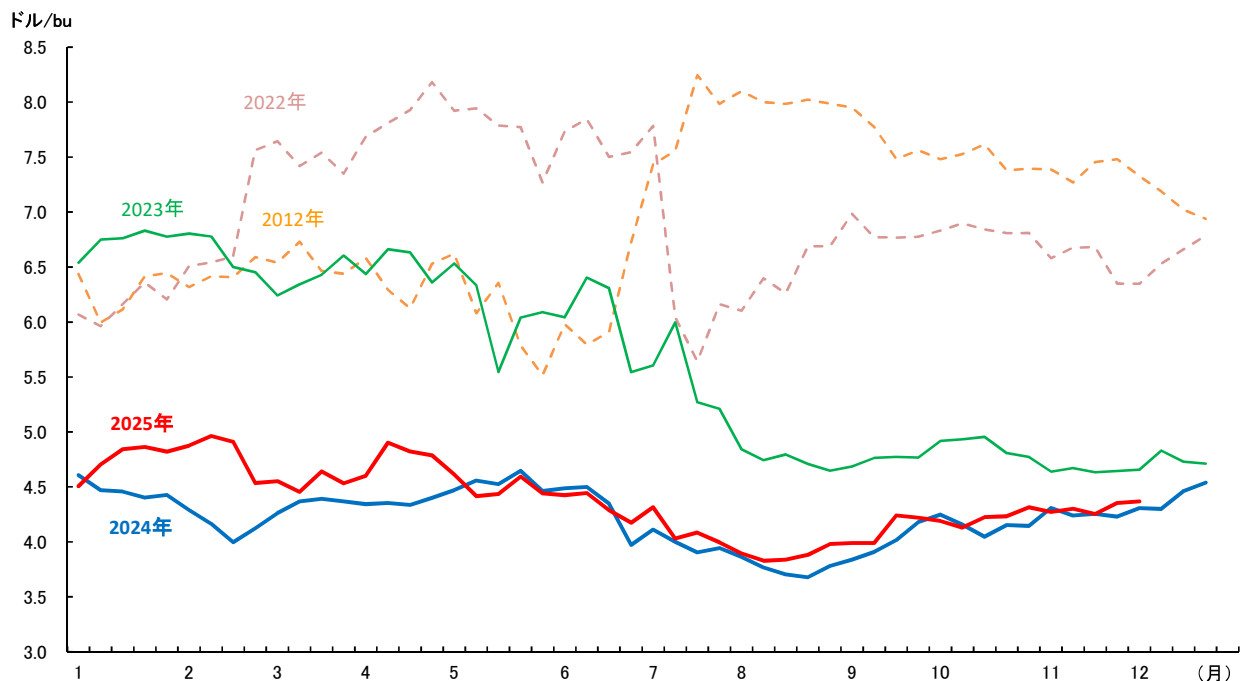
（史上最高値：8.31 ドル/bu(2012 年 8 月 21 日)）

【1月～6月】1月から2月18日にかけて、アルゼンチンの高温乾燥、米国農務省需給報告での米国産生産量の引下げ、米国の対メキシコ関税措置の延期により報復関税に伴う米国産の需要低下懸念が和らいだこと等を受けて、4ドル/bu 台半ばから5ドル/bu 台前半まで値を上げた。3月頭にかけて、米国アウトLOOKフォーラムで米国産の作付面積増加見通しが発表されたこと、米国の対メキシコ関税に対するメキシコの報復関税の可能性による米国産の需要低下懸念等を受けて4ドル/bu 台前半近くまで値を下げた。4月11日にかけて、米国の対メキシコ関税について、米国・メキシコ・カナダ協定に準拠した製品が対象外となり、米国産の需要低下懸念が和らいだこと、米国農務省需給報告での米国の期末在庫量引下げ、米国の90日間の相互関税適用停止等を受けて5ドル/bu 台近くまで値を上げた。6月末にかけて、米国の順調な作付進捗や良好な天候、ブラジルの増産見通し等を受けて4ドル/bu 台前半まで値を下げた。

【7月～9月】8月12日にかけて、米国の良好な天候やブラジルの豊作見通しや米国農務省需給報告における米国の生産量の大幅な上方修正等を受けて3ドル/bu 台後半まで値を下げた。9月末にかけて、米国産の堅調な輸出や乾燥による米国産の作柄懸念等を受けて4ドル/bu 台前半まで値を上げた。

【10月以降】10月に入り、米国の堅調な国内需要や米中首脳会談による貿易協議進展への期待等を受けて値を上げ、10月末現在、4ドル/bu 台半ば近くで推移。

11月に入り、中国の米国産とうもろこしの調達が限定的であったことや米国農務省需給報告で2025/26年度の米国産とうもろこしの単収が市場予測を上回ったこと等を受けて4ドル/bu 台前半まで値を下げたものの、米国産の堅調な輸出需要を受けて値を上げ、11月末現在、4ドル/bu 台半ばで推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。
グラフは、価格が高騰した2012年及び2022年と直近3年の価格の推移

● コメ：425 ドル/トン（前年同時期の価格：543 ドル/トン）

【価格は、タイ国家貿易取引委員会における 2025 年 12 月第 1 水曜日の FOB 価格】

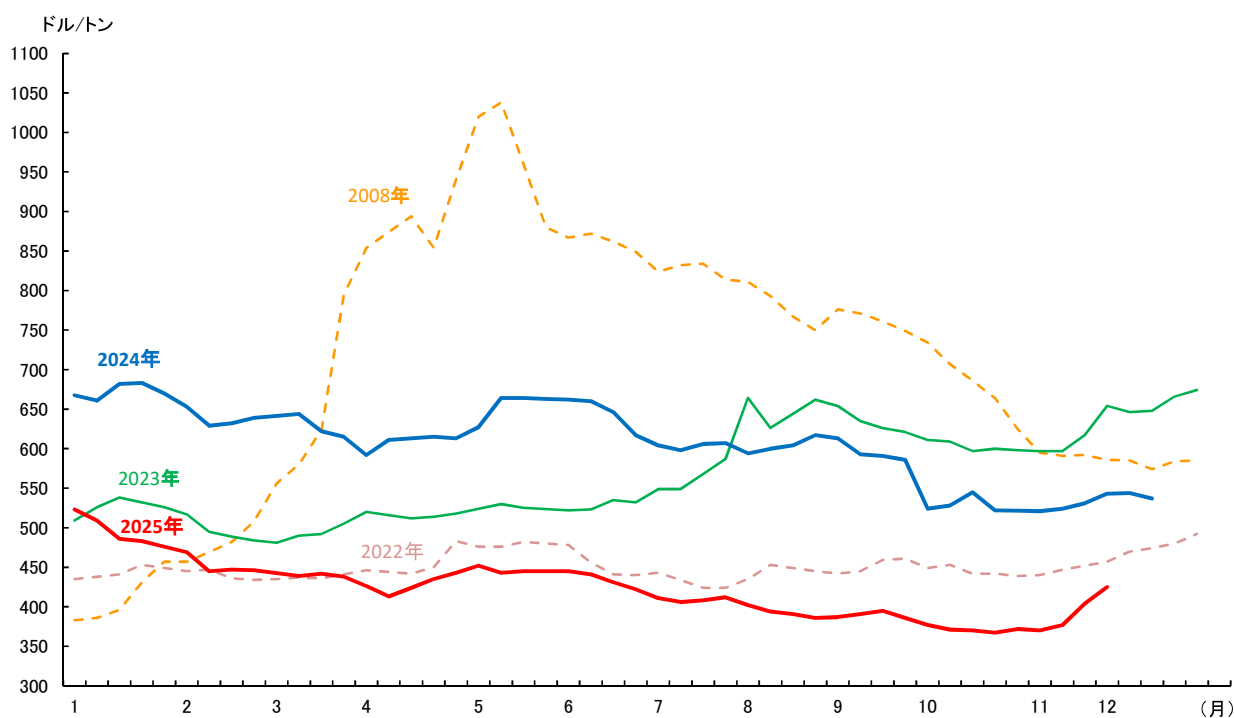
（史上最高値：1,038 ドル/トン(2008 年 5 月 21 日)）

【1月～6月】1月から4月9日にかけて、タイのバーツ安、アジア及びアフリカからの需要低迷、アフリカにおけるインド産米等との競合、インドにおける砕米の輸出再開、アジア及び南米地域からの十分な供給等を受けて 410 ドル/トン台前半まで値を下げた。5月7日にかけて、米国の 90 日間の相互関税適用停止、為替市場におけるタイバーツの上昇、米国等によるタイ、インド、パキスタン産米の購入が好調であったこと等を受けて 450 ドル/トン台前半まで値を上げた。6月末にかけて、アジアからの需要低迷、インド産米等との競合世界的な生産増等を受けて、420 ドル/トン台前半まで値を下げた。

【7月～9月】7月～8月末にかけて、アジアの主要市場における需要減退やインド産米等との競合等を受けて 380 ドル/トン台半ばまで値を下げた。9月末にかけて、タイバーツの上昇を受けて 390 ドル/トン台半ばまで値を上げたものの、世界的に潤沢な供給等の影響を受けて 380 ドル/トン台半ばまで値を下げた。

【10月以降】10月に入り、世界的な供給増や世界第一位の輸入国であるフィリピンの輸入禁止等を受けて 360 ドル/トン台後半まで値を下げたものの、その後、値を上げ、10月末現在、370 ドル/トン台前半で推移。

11月に入り、タイ南部における洪水の影響懸念、中国及びシンガポールからの需要増及びタイ政府のコメ政策管理委員会の結果等を受けて値を大きく上げ、11月末現在、400 ドル/トン台前半で推移。



(注)タイ国家貿易取引委員会、うるち精米100%2等のFOB価格(各週水曜日)

グラフは、コメ価格が史上最高値を記録した2008年及びロシアがウクライナに侵攻した2022年と直近3年の価格推移。

● 大 豆：11.05 ドル/bu（前年同時期の価格：9.94 ドル/bu）

【価格は、シカゴ商品取引所における 2025 年 12 月第 1 週末のセツルメント価格】

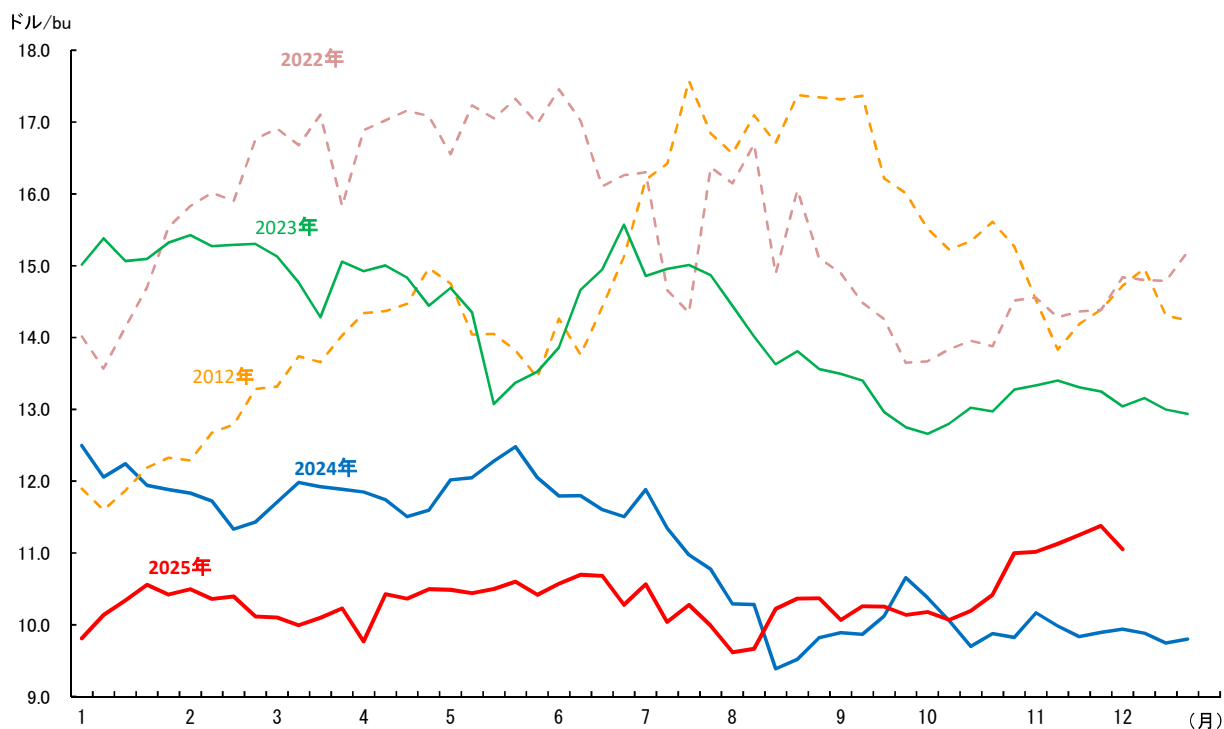
（史上最高値：17.71 ドル/bu(2012 年 9 月 4 日)）

【1月～6月】1月から2月頭にかけて、アルゼンチンの高温乾燥、米国農務省需給報告での米国産の生産量引下げ、米国の対中関税の導入に対し中国が大豆への報復関税を実施せず米国産の需要低下懸念が和らいだこと等を受けて、9ドル/bu 台後半から 10 ドル/bu 台後半まで値を上げた。3月頭にかけて、ブラジルの豊作見通し、米国の対中関税導入に対する中国の報復関税の実施による米国産大豆の需要低下懸念等を受けて 9 ドル/bu 台後半まで値を下げた。4月1日にかけて、バイオ燃料の混合率引き上げ報道に伴う大豆油急騰等を受けて 10 ドル/bu 台半ばまで値を上げた。その後、米国の関税措置による報復関税に伴う米国産の需要低下懸念等を受けて一時的に 9 ドル/bu 台後半まで値を下げたものの、6月18日にかけて、米国の 90 日間の相互関税適用停止、米国農務省需給報告での米国の期末在庫量引下げ、米国及び中国の追加関税率引下げ合意、米中首脳会談による貿易摩擦改善への期待、米国のバイオ燃料混合義務量引上げ案の発表等を受けて 10 ドル/bu 台後半まで値を上げた。6月末にかけて、米国の良好な天候見通しやイスラエル・イランの停戦合意等を受けて 10 ドル/bu 台前半まで値を下げた。

【7月～9月】7月に入り、大豆油の高騰や米中貿易協議進展への期待等から 10 ドル/bu 台半ばまで値を上げたものの、8月6日にかけて、米国の良好な天候見通し等を受けて 9 ドル/bu 台半ばまで値を下げた。9月16日にかけて、米国農務省需給報告における米国の生産量の下方修正、米国産大豆の良好な輸出成約、乾燥による米国産の作柄懸念等を受けて 10 ドル/bu 台半ばまで値を上げた。9月末にかけて、米中首脳会談で貿易協議に進展がなかったことや米国における収穫進展等を受けて 10 ドル/bu 台前半まで値を下げた。

【10月以降】10月に入り、米中首脳会談による貿易協議進展への期待等を受けて値を上げ、10月末現在、10 ドル/bu 台後半で推移。

11月に入り、米中関税の引下げ報道、中国への米国産大豆輸出再開の期待等を受けて 11 ドル/bu 台半ばまで値を上げたものの、中国向け大豆輸出低迷の懸念等を受けて 11 ドル/bu 台前半まで値を下げた。その後、中国の米国産大豆輸出成約等を受けて値を上げ、11月末現在、11 ドル/bu 台半ばで推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。
グラフは、価格が高騰した2012年及び2022年と直近3年の価格の推移。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	112.13	110.40
2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
108.99	106.73	109.89	131.57	140.59	146.57	149.42	149.63	153.43	156.13	157.82
7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年 1月	2月	3月	4月	5月
158.06	146.23	143.38	149.63	153.72	153.72	156.49	151.96	149.18	144.39	144.75
6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2026年 1月	2月	3月	4月
144.50	146.71	147.67	147.94	151.28	155.12					

出典：為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>
年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	38.48	46.42
2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
45.01	38.28	65.79	60.71	48.61	51.39	50.39	54.74	53.56	54.31	53.28
7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年 1月	2月	3月	4月	5月
53.50	53.27	49.11	46.72	43.00	40.71	40.33	40.41	42.37	43.29	43.93
6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2026年 1月	2月	3月	4月
45.30	51.06	50.44	53.84	50.87	51.05					

出典：米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC
Grain Market Indicators」
年別は月別データの平均値。月別は、毎日価格の平均値。

3 原油価格(WTI: 米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

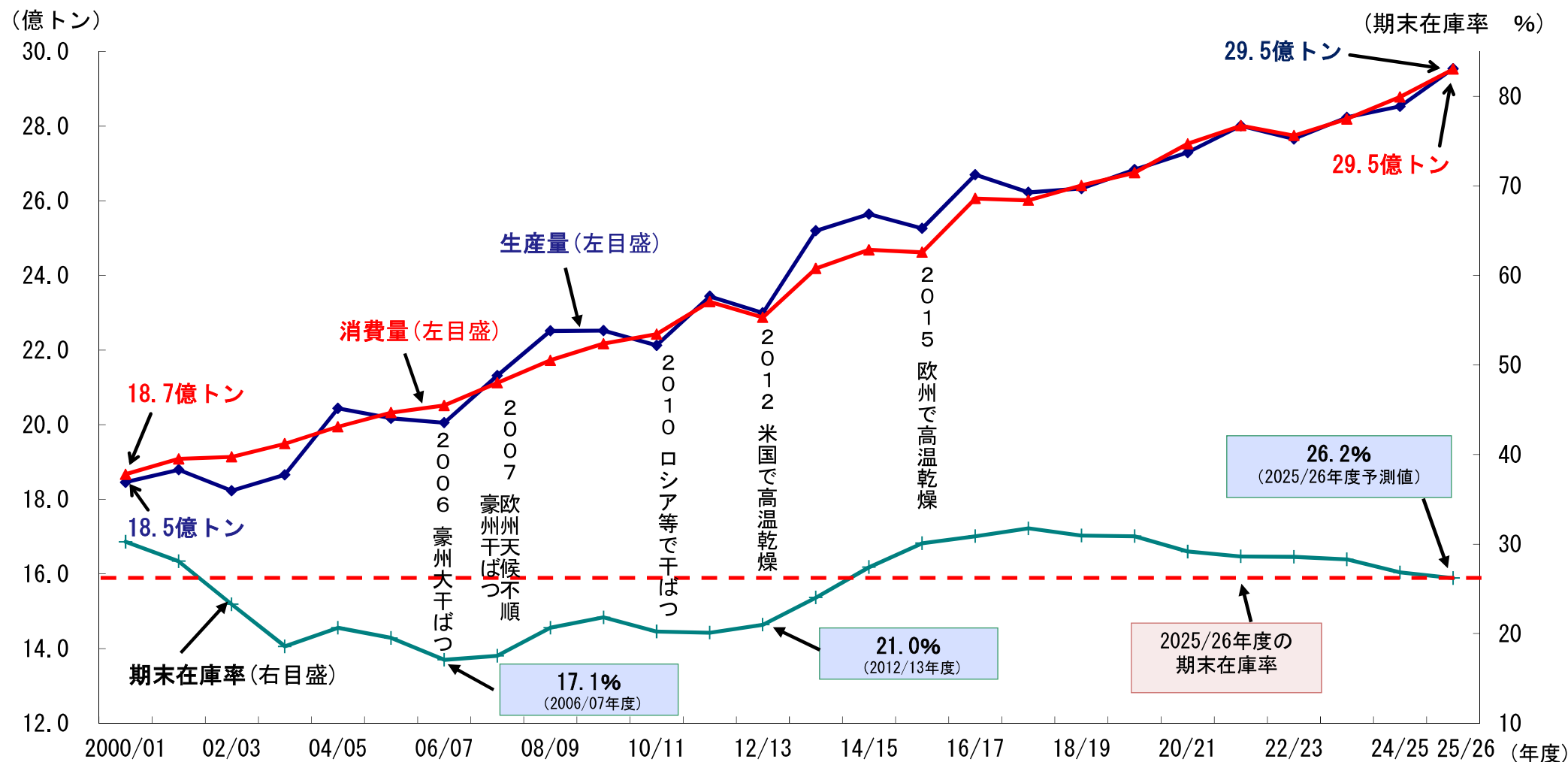
2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	92.91	48.76	43.47	50.85	64.90
2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
57.04	39.34	68.08	94.33	77.61	73.86	76.61	80.41	84.39	78.62	78.70
7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年 1月	2月	3月	4月	5月
80.48	75.43	69.37	71.56	69.54	70.12	75.74	71.53	68.24	63.54	62.17
6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2026年 1月	2月	3月	4月
68.17	68.39	64.86	63.96	60.89	60.06					

出典：内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」。但し、2024年12月以降は、米国エネルギー情報局(U.S.Energy Information Administration)「Weekly Petroleum Status Report」の日次データの平均値。

穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2025/26年度は、2000/01年度に比べ1.6倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2025/26年度の期末在庫率は、生産量が消費量を上回るものの、前年度より減少し、26.2%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(December 2025)、「PS&D」

(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。